

2019.4.28 復活節第2主日（神のいつくしみの主日）

だれの罪でも赦される

ヨハネによる福音書 20:19-31

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。これらのことが書かれたのは、あなたがた

が、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

説教

イエスのことば・行いを記録した書が福音書です。地上に生きたイエスに焦点をあわせて記録しているので、復活したイエス・キリストのことばを記録している箇所はそう多くありません。きょう朗読したヨハネ福音書の20章は復活のイエスの記録という意味で特別な福音といえます。

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち「あなたがたに平和があるように」と言われた。20:19

その日とはイエスが復活した日曜日のこと、きょうの出来事は「カラの墓」を弟子たちが見つけた日曜日の夕方おきました。

「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」20:22-23

ふつう、罪のつぐないは罰を受けることだと考えられています。わたしたちは罪を犯した人が、罰を受けることで罪のつぐないをしようと思っています。イエスはそうではなく、聖霊を受けて赦せば罪は赦されるといっています。罪を犯した人ではなく、罪を赦す人（被害者）の赦し方に注目しています。また「聖霊」が赦しのポイントになっています。極端に言えば、聖霊を受けることで罪を赦せる、赦せるようになるということになります。

イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」20:29

トマスは復活のイエスが弟子たちに現れた時、同席していませんでした。トマスの言い分は、みんなの言う復活のイエスのことは信じられない、見ていないから信じないということです。一週間後、復活のイエスはトマスの前にも表れます。そこでイエスは見ないのに、信じる人は幸いだといいました。このイエスのことばはわたしたちにも幸いなことばです。わたしたちもイエ

スを見ることはありません。ただ、イエスのことを聞くだけです。そんなわたしたちでも信じることができるのだとイエスはいいきています。「見ないのに信じる人は、幸いである。」

- 1) あなたがたに平和があるように
- 2) 聖霊を受けなさい
- 3) 罪を赦しなさい
- 4) 見ずして信じなさい

箇条書きにして整理するとこの4つのことを復活したイエスは弟子たちに伝えました。どれも大切な教えですが、「罪を赦す」ということを考えて見ます。

ある人が病院で大切な家族を亡くしました。その人は直接の死因は医者 of 医療ミスではないかとうたがいます。医師、病院との話し合いもちが明かず、彼らは自分たちのミス、落度を認めようとしません。その人はどうしてもその医者を赦すことができません。裁判をして法でその医者を裁こうと医療事故専門の弁護士に相談します。裁判をおこして死んだ人間が生き返るわけではない、しかし、この苦しみをもう二度とほかの人が味わうことのないようにあの病院、あの医者を裁いて罪の償いをさせるのだ、とその人は和解をすすめる弁護士をふりきって告訴に踏み切りました。

十字架につけられたイエスは復活して弟子たちに現れました。そしてこういいます。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」わたしたちは本当に赦すことのできない人間だとおもいます。

あるときイエスはこういいました。

あなたたちの中で罪を犯したことの無い者が、まずこの女に石を投げなさい。ヨハネ8:7

このとき誰も石を投げることができずにその場を立ち去ったと福音は伝えて

います。わたしたちは自分自身の自省によって手にした石をそっと置くこと、ふりあげた拳を置くことができるのでしょうか。そんなことはできない、とわたしは考えています。わたしたちはいったんは石を置いた振りをすることはできます。しかし、心の中でその石をギュッと握ったままです。わたしたちにはほんとうの意味では、石を置くことはできないのだとおもいます。復活のイエスはこう教えます。

「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」
聖霊を受けることであなたは赦すことができるようになる、聖霊を受ければ、あなたは人を裁かず赦す人となる、と。

このイエスのことばを信じ赦すことができますように、そして主の平和がわたしたちに訪れますように。
